

平成27年度恵庭市総合防災訓練検証報告書（概要版）

1. 総合防災訓練の目的

災害時において地域住民及び防災関係機関が一体となり、相互の連携と防災意識の高揚を図り、迅速かつ的確な救急救助活動や復旧活動が展開できるよう防災訓練を実施する。

2. 検証の目的

検証結果を地域防災計画へ反映させ、今後の災害対策に生かすことを目的とする。

3. 検証の視点

- (1) 地域防災計画・各災害対策部マニュアルの視点
- (2) 防災関係機関への応援要請の視点
- (3) 被害状況予測と優先活動選択の視点

4. 検証の方法

- (1) 防災関係機関等による検証
- (2) 災害対策本部員による検証
- (3) 訓練評価者による検証
- (4) 災害ボランティアセンター・福祉避難所開設訓練参加者による検証

5. 検証を踏まえた今後の災害対策への反映事項

■ 今回の災害対策本部訓練では、初めてブラインド型訓練により実施したが、参加者全員が訓練の重要性を認識し、緊張感を持って取り組んだ姿勢は評価できる。しかしながら、訓練を実施して、新たな課題や反省点もあったことから、下記事項について見直しを行い、今後の災害対策に生かしていく必要がある。

- | | |
|----------------------|--|
| (1) 災害対策本部訓練 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時の被害想定と状況付与の見直し ・各種情報を共有するため、プロジェクター・スクリーンの有効活用 ・職員の危機意識の向上のため職員全体の訓練への見直し ・被害情報収集方法と分析方法の検討 ・各災害対策部長と連絡員の情報連絡体制の構築 ・会議室内の配置の見直しと地図、備品の有効活用 ・対策活動ごとの調整会議の開催 |
| (2) 情報伝達訓練 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に備え複数の連絡方法の確認 |
| (3) シェイクアウト訓練 | <ul style="list-style-type: none"> ・訓練内容の事前周知と指導職員の配置 |
| (4) 住民参加訓練 | <ul style="list-style-type: none"> ・訓練参加対象者（町内会含む）の範囲について検討 ・訓練参加者への訓練内容の事前説明 |
| (5) 防災車両、防災資機材展示訓練 | <ul style="list-style-type: none"> ・展示車両、資機材の追加、拡充 |
| (6) 応急給水訓練 | <ul style="list-style-type: none"> ・看板設置など訓練場所の周知 |
| (7) 炊き出し訓練 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民による炊き出し訓練の実施 |
| (8) 大規模地震対応消防訓練 | <ul style="list-style-type: none"> ・訓練内容、訓練方法の内容検討 |
| (9) 災害ボランティアセンター開設訓練 | <ul style="list-style-type: none"> ・受付方法の見直し（資格や特技など詳細に記入） |
| (10) 福祉避難所開設訓練 | <ul style="list-style-type: none"> ・重度の要支援者を想定した訓練の実施 |
| (11) 訓練全般 | <ul style="list-style-type: none"> ・荒天時の対応の明確化（訓練内容、訓練会場、予備日等） ・アナウンサー、映像車との調整 ・訓練会場、開催時期、開催周期の検討 ・訓練結果の職員への周知方法の検討 |

平成27年度 恵庭市総合防災訓練 検証報告書



平成27年11月
恵庭市

目 次

はじめに	1
1 検証の視点	2
2 検証の方法	2
3 訓練概要（全体）	3
4 各訓練の概要、課題及び今後の対策	4
(1) 災害対策本部訓練	4
(2) 情報伝達訓練	10
(3) 恵庭市一斉シェイクアウト訓練	11
(4) 住民参加型訓練	12
(5) 防災車両、防災資機材展示訓練	14
(6) 応急給水訓練	15
(7) 炊き出し訓練	16
(8) 大規模地震対応消防訓練	18
(9) 災害ボランティアセンター開設訓練	19
(10) 福祉避難所開設訓練	21
(11) 開催時期	22
(12) 開催周期	22
5 検証を踏まえた今後の災害対策への反映事項	23

【資料】

- ・平成27年度恵庭市総合防災訓練 災害対策本部訓練に関する評価
- ・平成27年度恵庭市総合防災訓練 意見・要望調査票

はじめに

恵庭市総合防災訓練は、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第42条の規定に基づき策定した恵庭市地域防災計画に規定する風水害、地震等の災害から市民の生命、身体及び財産を災害から保護するために、市及び防災関係機関が一体となり、災害発生時に迅速かつ的確な救急救助活動や復旧活動が展開できることを目的としており、その周期は4年に一度として位置づけされている。

いうまでもなく、災害発生時に迅速に初動体制を確立し、的確な応急対策をとることは、被害を最小限に軽減するために重要であり、そのためには日ごろから訓練等を通じた実践的な対応力を身につけておく必要がある。

こうしたことを前提として、今年度の総合防災訓練では、市内北東部を震源としたマグニチュード6.9（震度6強）の直下型地震の発生を想定し、災害対策本部訓練においては、災害発生時に設置される災害対策本部機能の向上、各災害対策部の意思決定・対応能力の向上、防災関係機関との連携の向上を重点項目として実施したほか、災害ボランティアセンター・福祉避難所の開設訓練やシェイクアウト訓練を新たに盛り込んだ訓練を実施したところである。

特に災害対策本部訓練においては、より実践的な訓練方法としてのブラインド型訓練を今回の訓練で初めて取り入れ、災害予測の共通認識や各災害対策部の役割・分担、図面の使い方など災害対策本部体制の課題を見出し、今後の防災対策に反映することにした。

近年は、全国で大規模な自然災害が発生しており、平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、マグニチュード9.0という巨大地震であり、未曾有の被害をもたらしたところである。また、平成26年には広島市における土砂災害や御嶽山における火山災害、長野県北部の内陸地震の発生、さらには本年においても、5月の鹿児島県屋久島町口永良部島新岳噴火災害、9月の関東地方北部・東北地方南部集中豪雨災害など、全国で大規模な自然災害が発生したところであり、恵庭市においても昨年の9月11日における集中豪雨災害が発生し大きな被害をもたらしたところである。

全国いつどこで発生してもおかしくない災害に対して、事前の災害対策や災害発生時の迅速かつ的確な対応等の様々な対策のより一層の充実を図ることが喫緊の課題である。

今回の訓練においては、各災害対策部が訓練の目的や重要性を認識し取り組んだところであるが、しかしながら、災害対策本部の決定事項を各災害対策部に速やかに連絡する体制が不十分であったり、被害状況予測と優先活動の選択において各災害対策部の認識に差があるなどの新たな課題が浮き彫りになったことから、こうした検証結果を恵庭市地域防災計画へ反映させ、今後の災害対策の向上に生かすことを本検証報告書の目的とした。

1. 検証の視点

- (1) 恵庭市地域防災計画・各災害対策部マニュアルの視点
恵庭市地域防災計画及び各災害対策部マニュアル等に基づき初動体制や役割分担、災害対策活動が適切に行われていたか検証する。
- (2) 防災関係機関への応援要請の視点
防災関係機関及び防災協定締結企業・団体等の情報が各災害対策部において共有化され、調整・連絡が適切に行われていたか検証する。
- (3) 大規模地震発生における被害状況予測と優先活動の選択の視点
各災害対策部において被害状況予測と優先活動の選択が統一的認識となっていたか検証する。

2. 検証の方法

(1) 防災関係機関等による検証

本総合防災訓練の参加者である防災関係機関代表者や参加町内会・自治会長、地域防災マスターに対し、別紙「平成27年度恵庭市総合防災訓練 意見・要望調査票」を送付し、回答内容の取りまとめを行い課題の抽出を行った。

(2) 災害対策本部員による検証

災害対策本部員に対して、別紙「平成27年度恵庭市総合防災訓練 意見・要望調査票」及び災害対策部長会議を開催し課題の抽出を行った。

(3) 訓練評価者による検証

本総合防災訓練にあたり、自衛隊員の現職時に災害派遣時の指揮官として携わった知識・知見が豊富な基地・防災課危機管理担当参事を評価者にあて、課題の抽出を行った。

(4) 災害ボランティアセンター・福祉避難所開設訓練参加者による検証

訓練参加機関代表者による検証会議を10月7日に実施し、課題の抽出を行った。

■別紙「平成27年度恵庭市総合防災訓練 意見・要望調査票」回答数

災害対策本部訓練【回答数12】		文教大学会場訓練【回答数73】	
回答者	・各災害対策部長【9】 ・防災関係機関【3】	回答者	・防災関係機関【17】 ・町内会・自治会会長（一部町内会員含む）【31】 ・地域防災マスター【16】 ・各災害対策部長【9】

3. 訓練概要（全体）

訓練名	平成27年度恵庭市総合防災訓練	
目的	災害から市民の生命や財産を守るため、地震発生による大規模災害を想定し、地域住民および企業や防災関係機関が一体となり、相互の連携と防災意識の高揚を図り、災害時において迅速かつ的確な救急救助活動や復旧活動が展開できるよう防災訓練を実施して、災害に対して万全を期すことを目的とする。	
災害想定	大規模地震 ※平成27年9月2日午前8時00分、市内北東部を震源としたマグニチュード 6.9（震度6強）の直下型地震が発生。	
日時	平成27年9月2日（水）8時45分～13時00分 ※雨天のため予定より1時間短縮	
実施項目	○災害対策本部訓練 ○情報伝達訓練	市役所 301・302 会議室
	○開会式 ○恵庭市一斉シェイクアウト訓練 ○住民参加訓練（雨天により一部省略、変更あり） ・倒壊建物救出・救助訓練 ・応急手当訓練 ・煙体験訓練 ※バケツ消火訓練は雨天のため中止 ○防災車両、防災資機材展示 ○応急給水訓練 ○炊き出し訓練 ○大規模地震対応消防訓練 ※自衛隊ヘリによる傷病者搬送訓練は雨天のため中止 ○閉会式	北海道文教大学
	○災害ボランティアセンター開設訓練 ○福祉避難所開設訓練 ※要支援者移送訓練は雨天のため中止	社会福祉協議会 子ども発達支援センター
参加協力団体	防災会議機関、町内会・自治会、市内自主防災組織、災害時応援協定機関、小中学校等	

4. 各訓練の概要、課題及び今後の対策

(1) 災害対策本部訓練

①訓練概要及び結果

本訓練は、災害対策本部意思決定・対応能力の向上、各災害対策部の災害対応能力の向上、関係機関との連携強化等を図るため、各災害対策部へ情報提供（状況付与）のみ事前に付与し、各災害対策部がどのような対応を行うのか検討し、報告する方式（ブラインド方式）で実施した。また、防災関係機関から陸上自衛隊、北海道開発局、北海道警察が出席し、非常体制等を報告し情報共有を図った。

- 日 時：8時45分～9時30分
- 場 所：301・302会議室
- 状況付与

想定時間	想定被害状況
8:05	恵庭テクノパーク（レンゴー恵庭工場付近）で火災が発生している。
8:08	道路が寸断している。（黄金中央通の黄金橋崩落）
8:10	水道が出ない地域がある。（黄金中央、黄金南、黄金北）
8:13	道路から水道が漏れている（恵み野地区数ヶ所）
8:15	黄金地区で家が倒壊している。（総合体育館付近、黄金郵便局付近数件）
8:17	黄金地区、和光地区の住民より家が倒壊したので避難所を開設してほしいとの問合せがある。
8:20	父兄から小学校、中学校の授業があるか問合せがある。
8:20	黄金ふれあいセンターに住民が避難してきている。高齢者もたくさんいる。
8:25	地震の影響でボイラータンクの重油が漏れ出し、ユカンボシ川に流入している。（戸磯・恵南工業団地）
8:25	今回の地震に伴う市内の被害状況はどうなっているのか？災害対策本部の動きと住民対応について知りたいが記者発表はないのか。（新聞社より）
8:30	恵庭墓園の近くの電柱より火花が出ている。
8:30	ボランティア団体から支援したいとの問合せがある。

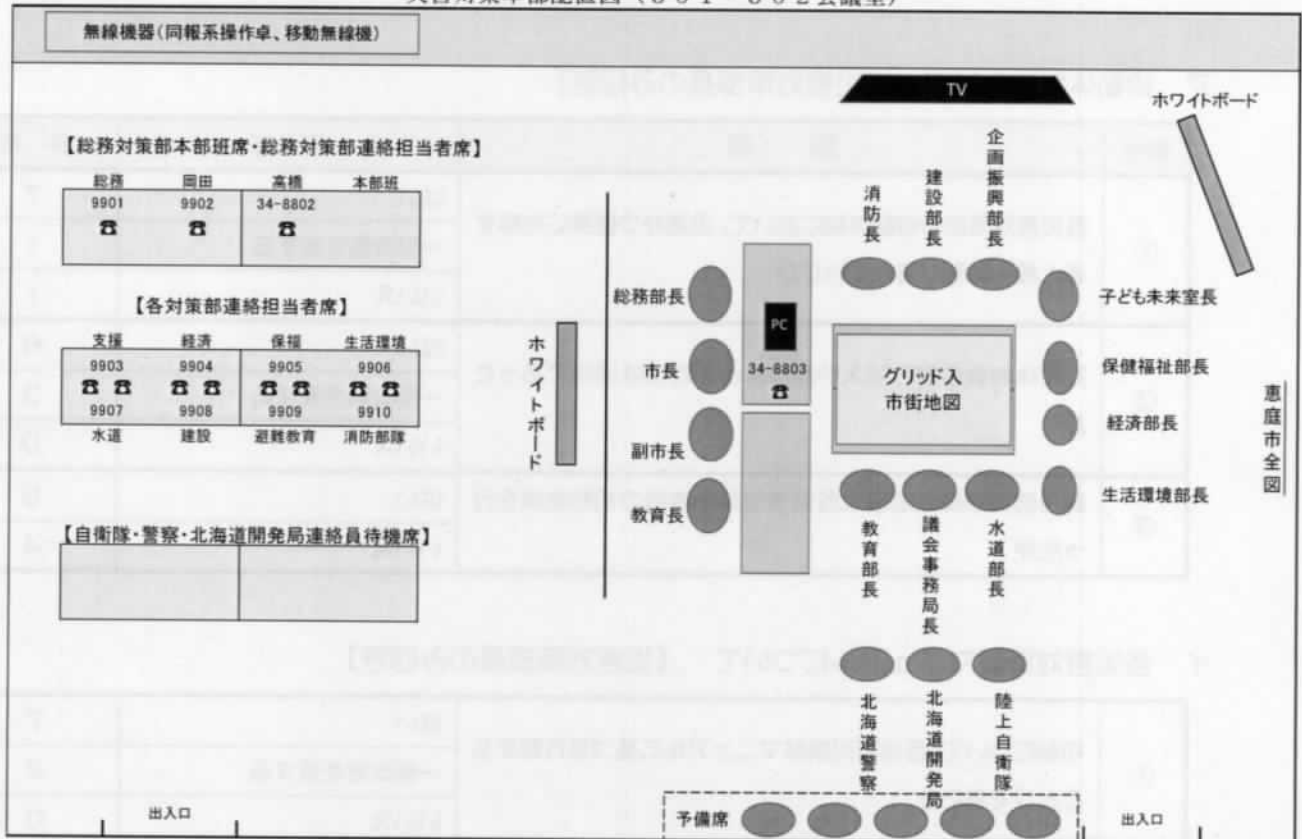
○ 本部会議の内容

時 間	進行内容
8:40	301・302 会議室に集合 ・本部長、副本部長、各災害対策部長、各災害対策部連絡担当者、総務対策部本部班（自衛隊、北海道開発局、北海道警察到着） 庁内放送（訓練開始案内・本部員の集合）
8:45	第1回災害対策会議の開催・訓練開始
8:48	総務対策部長から気象情報、ライフライン被害状況及び職員参集の報告
8:53	総務対策部長から現在までの被害状況の概要報告
8:57	関係機関から状況報告（自衛隊、北海道開発局、北海道警察）
9:01	各災害対策部長から被害状況報告 ※状況内容と体制、今後予測される被害と体制
9:19	本部長からの質問と応答、本部長指示
9:45	第1回災害対策本部会議終了

○ 配置【前回の訓練からの変更点】

- ・本部長、副本部長、総務対策部長に長机を使用し、各災害対策部長、防災関係機関は袖机付きイスを使用した。
- ・災害対策本部会議と本部班、各災害対策部連絡員との間にパーテーションを配置し、両方の音を遮るよう配慮した。

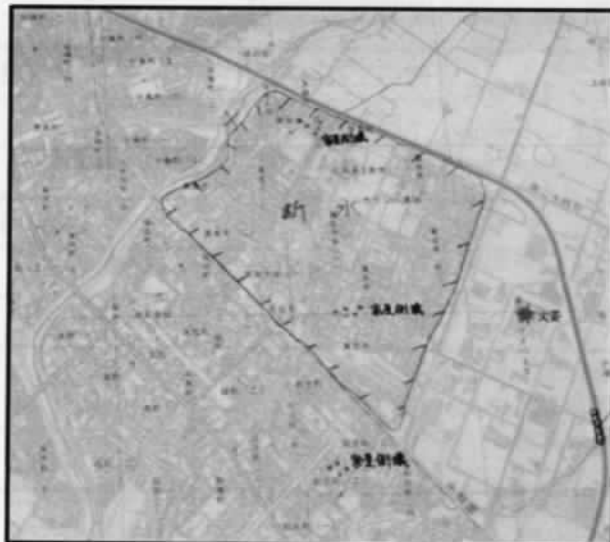
災害対策本部配置図（301・302会議室）



○ 災害共有図

陸上自衛隊でも使用されている座標を用いた UTM グリッド地図（国土地理院提供）を使用し、災害情報の共有を図った。

【使用図面】



【陸上自衛隊による災害情報の共有】



○アンケート結果

各災害対策部長に対し、災害対策本部訓練についてアンケートを実施した。また訓練に参加した防災関係機関（北海道開発局、陸上自衛隊第72戦車連隊、北海道警察千歳警察署）にも一部設問についてアンケートを実施した。

※【防災関係機関の回答は（ ）で表示】

ア 初動体制について 【災害対策部長のみ回答】

番号	設 問	回 答	件 数
①	各災害対策部の初動体制において、迅速かつ確実に対応する人員・体制が整っていたか	はい	7
		一部改善を要する	1
		いいえ	1
②	初動体制報告書の記入や取りまとめ方法は適切であったか	はい	6
		一部改善を要する	3
		いいえ	0
③	総合防災訓練とは別に各災害対策部独自の初動訓練を行ったか	はい	5
		いいえ	4

イ 各災害対策部マニュアルについて 【災害対策部長のみ回答】

①	初動について、各災害対策部マニュアルに基づき行動することができたか	はい	7
		一部改善を要する	2
		いいえ	0
②	訓練に際し事前に各災害対策部マニュアルの確認や周知は行ったか	はい	9
		いいえ	0
③	訓練を踏まえて、各災害対策部マニュアルの見直しを行なう必要がある、又は見直しを行ったか	見直しを行った	1
		今後見直しを行なう予定	5
		見直す予定はない	3

ウ ブラインド型訓練について 【①②の設問は防災関係機関回答含む】

①	今回の訓練は、事前に訓練の進行やシナリオを与えず、状況のみを付与するブラインド訓練として実施したが適切であったか	適切であった	7 (3)
		一部改善を要する	5
		シナリオ型訓練とすべき	0
②	今回の訓練は、火災の発生や道路の寸断など事前に被害状況を付与したが、その状況は適切であったか	適切であった	9 (3)
		一部改善を要する	3
		状況付与は必要ない	0
③	各災害対策部では、この状況付与による対策活動の他に、今後発生する可能性のある被害予測を行い、対策活動についてシミュレーションを行ったか 【災害対策部長のみ回答】	はい	7
		いいえ	2

エ 本部訓練の進行について 【①②の設問は防災関係機関回答含む】

①	今回の進行内容は①ライフライン被害状況等報告、②各災害対策部からの状況報告、③関係機関からの状況報告、④本部長からの質問・指示であったが、適切であったか	適切であった	9 (3)
		一部改善を要する	3
		改善を要する	0
②	今回の訓練時間は約1時間であったが、時間は適切であったか	適切であった	10 (3)
		時間が短い	2
		時間が長い	0
③	災害対策本部に各災害対策部の連絡員を配置していたが、各災害対策部長は連絡員へ情報伝達・指示を行うことができたか【災害対策部長のみ回答】	はい	4
		いいえ	5
④	各災害対策部の連絡員は、各災害対策部長の指示事項を各対策班へ迅速かつ適切に連絡することができたか【災害対策部長のみ回答】	はい	3
		いいえ	1
		本部会議の内容を聞き取り連絡した	5

オ 本部会議の配置、図面について 【防災関係機関回答含む】

①	災害対策本部訓練では、各災害対策部長の机をなくし、図面を中心として本部長や各災害対策部長を配席したが、こうした配席は適切であったか	はい	10 (3)
		一部改善を要する	2
		いいえ	0
②	災害対策本部訓練では、テレビ、防災無線操作卓、図面、ホワイトボード、電話、ファックス、パソコンを配置したが、こうした備品は適切であったか	はい	8 (3)
		一部改善を要する	3
		いいえ	1
③	災害対策本部訓練では、図面により被害情報など共有したが、今後の対策本部会議でも図面を使うべきか	はい	12 (3)
		いいえ	0
④	図面は関係機関（自衛隊、開発局、警察、消防）と統一すべきか	統一すべき	11 (3)
		統一しなくても良い	1

カ 災害対策本部訓練全般について 【防災関係機関回答含む】

①	災害対策本部訓練の開催周期を何年とするべきか	4年に一度	1
		3年に一度	0
		2年に一度	2
		毎年	8 (2)
		その他	1 (1)
②	今後の災害対策本部訓練の災害想定は何にするべきか【複数回答可】	地震災害	3 (2)
		水害	7 (1)
		火山災害	1
		その他	2

② 課題及び今後の対策

※課題は調査票より抽出し、今後の対策については基地・防災課で検討し記載。

■…各災害対策部長の意見 ◆…防災関係機関の意見、 ★…訓練評価者の意見

○初動体制・各災害対策部マニュアルについて	
課 題	今後の対策
■今回想定した災害規模の初動体制で、確実に対応出来る人員体制を整えることは困難である。現実的な観点から、人員不足も想定した形でどのように出来るか予測した訓練も必要である。	災害時には各災害対策部間での連携・応援体制は必要である。災害対策活動の優先順位の選択や職員の応援体制について検討が必要である。
■今回の訓練では、震災発生から災害対策本部設置までの時間が短く初動体制に入るまでの時間も現実と乖離がある。初動体制の記入なども適切かどうか疑問である。次回は、検討すべき。	今後の訓練において、実際の震災発生を考慮した時間設定を行うよう検討する。
■職員数の確認や、対策本部班として本部会議の進め方や記録の仕方など、マニュアルの一部見直しが必要である。	各災害対策班で検証を行い、マニュアルを見直す。
■市役所職員全体の訓練となっておらず、危機意識が足りない職員が見られた。4年に1回の訓練なのだからもう少し緊張感が必要。	実際の災害時に対応できるよう、今後は様々な状況を想定した訓練を通して、日頃から防災意識を向上させることが必要。

■…各災害対策部長の意見 ◆…防災関係機関の意見、 ★…訓練評価者の意見

○ ブラインド型訓練、本部訓練の進行について	
課 題	今後の対策
■状況付与に対して、各災害対策部の状況報告がペーパーでなされたが、災害時にはリアルタイムでペーパーに整理できるか。困難も予想されるため、そのことを踏まえた訓練も必要。	災害時においては情報が集中する災害対策本部での情報の取り扱い方法の標準化が必要であるとともに、地図の利用方法について検討する。
★災害対策本部会議の終了時に次回の会議（時間、目的）についての予告がなかった。	災害対策本部会議の開催目的、時間を庁内で共有することは重要なことであり、今後の訓練においてはしっかり明示する。
■今回の状況付与で、被害予測と対応を判断することは難しい。水道に関しては黄金地区が断水であれば、水道管網内容による現実的予測から、広範囲にわたる大規模断水になることが想定され、訓練内容と乖離が生じていた。重要なインフラの被害想定は実情に即したものとすべき。被害想定と対応に乖離があった。	実際の災害時に合わせた被害想定と状況付与について整理が必要。今後専門的知見からの被害想定、状況付与についても検討する。
■実際に災害が発生したときには、様々な状況が想定されるため、訓練との兼ね合いでどこまでの状況を付与すべきか、更なる検証を要す。	各災害対策部が被害状況予測の具体的なイメージをもつことは重要なことから、各災害対策部において再確認の必要がある。
★各災害対策部長からの報告が、被害状況と処置した事項の報告に留まり、情報の分析結果の報告がなかった。	情報の分析を含めた被害状況報告の見直しを行う。

○ ブラインド型訓練、本部訓練の進行について	
課 題	今後の対策
■ 班長以上の訓練としては適していたが、残念ながら全体の訓練とはならなかった。	今後の訓練においては、災害の種類別訓練、さらには訓練ポイントを絞った図上訓練等を実施し、職員が何らかの訓練に参加するよう見直しする。
★ 「応急対策活動ごとの調整会議」について実施の指示がなかった。(避難所を開設する場合、避難情報の伝達(広報班)、避難所の開設(教育対策班)、避難所への物資の輸送(配送班)など関係する班が多くあるため対策活動ごとの会議が必要)	災害対策本部会議とは別に、各災害対策部間の情報共有や被害情報収集・分析、災害対策活動について検討する調整会議が必要であることを認識した。今後、調整会議設置に向けて体制、役割等について検討を行う。
◆ 今回の訓練は市災害対策部を主体とした訓練であったが、次回は防災機関との調整や情報共有の部分にも厚みを増してもらいたい。	実際の災害時には、防災関係機関との情報共有が重要となるから、今後の訓練において実施する。
■ 総合防災訓練の中での災害対策本部訓練であった為、時間が限定的で踏み込んだ訓練が出来なかった。	今後の訓練においては、災害の種類別訓練、さらには訓練ポイントを絞った図上訓練等を実施するよう訓練項目の見直しをする。
■ 対策本部の進行上、各部隊本部長が連絡員に伝達する進行が無かったと思う。また、連絡員との間にパーテーションが設置され、状況を適宜把握できなかった。	実際の災害時を想定し、各災害対策部長と連絡員の情報収集・伝達体制の整備が必要。

○ 本部会議の配置、図面について	
課 題	今後の対策
★ 災害対策本部に備えている地図の機能が不十分(患庭市全体がカバーされていない)であった。	自衛隊等をはじめとする防災関係機関と情報共有する必要があるため、グリッド線の入った共通地図は有効な手段であるため導入する。
★ 市内の人的・物的被害数を把握できる資料・防災備蓄品の状況を把握できる資料がなかった。	災害時における情報共有資料について検討する。
★ 避難所の収容人数を把握できる資料が掲示されていたが、やや不十分(資料が小さい、要配慮者について把握できない、避難所の地図の方角が分かりにくい)であった。	資料をより見やすくするため、資料の提示方法について検討する。
★ ■ 長期の活動を念頭においた情報履歴の記録準備体制がとれていなかった。(ホワイトボードでは対応できないため、パソコン・プロジェクター・スクリーンを使用し、情報履歴を確認できる体制が必要。)	活動が長期化するとホワイトボードでは対応できないため、パソコン・プロジェクター・スクリーンの導入について検討を行う。
★ 災害対策本部に指示棒が備え付けられていなかった。	指示棒を購入する。
★ 被害状況等、現地の状況を画像で確認できる体制がとれていなかった。	災害時には、現地の状況を把握し、対策を講じる必要があることから、機器等を活用し現地を確認できるよう検討する。
■ 本部長や各災害対策部長は図面が見やすい配置であるが、連絡員や他の出席者には状況把握が難しく各災害対策部に指示を出しづらいので、会議室にいる全員が情報確認できるような方法を考える必要がある。	ビデオカメラ等を活用し全員で情報共有することが必要。

○ 本部会議の配置、図面について

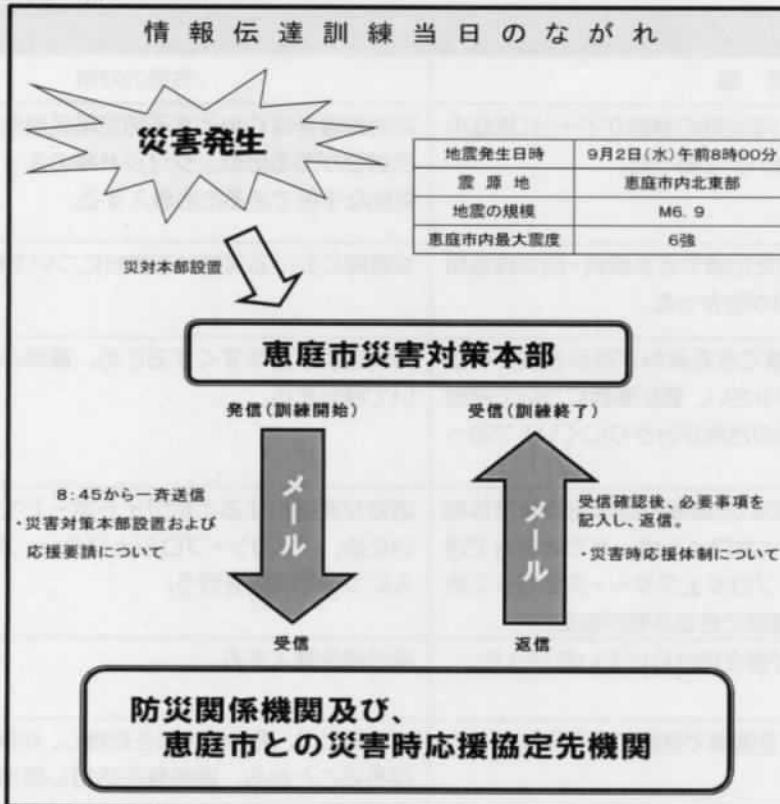
課 題	今後の対策
<p>■ 今回の被害想定では、固定電話や携帯電話による通話や使用が困難であり、電気は停電との被害想定であったが、各災害対策部との連絡は電話で、連絡員からの連絡も電話ということで矛盾が生じている。水道庁舎では、停電後には内線は使用不可、外線は30分しかつながらない。</p>	<p>実際の災害時には、電話が使用できないこともあるため、電話が使用できない状態での訓練について検討する。</p>
<p>■ メモを取るためのテーブルが必要である。</p>	<p>各災害対策部長がメモをとることも想定されるため、配置について検討が必要。</p>

(2) 情報伝達訓練

① 訓練概要及び結果

防災関係機関及び防災協定締結企業・団体との相互の連携強化を図ることを目的とし、災害対策本部より応援要請のメール（一部機関はFAX）を発信し、受信した各機関は災害時に想定される状況を記入後、報告した。

○ 情報伝達訓練フロー



○ 結果

参加機関	53機関
返信結果	49機関

② 課題及び今後の対策

課 題	今後の対策
あらかじめ用意しておいたメールリストにて一斉送信を行ったが、相手方の受信環境等により、届かない又は添付ファイルが開けない機関があった。	災害時に備え、情報伝達手段をメールだけではなく、FAX、電話など複数の連絡システムを確認する。

(3) 恵庭市一斉シェイクアウト訓練

①訓練概要及び結果

今回の訓練では、全市的な取り組みとして、市内防災機関、協定先企業、各家庭などに対し、地震発生時における命を守る3つの安全行動（①姿勢を低く②頭を守り③じっとする）を取り入れたシェイクアウト訓練を実施した。訓練当日は、午前11時に防災行政無線にて合図を行い、また、文教大学会場では開会式終了直後に合図を行い、参加者全員で一斉に実施した。

【シェイクアウトイメージ図】



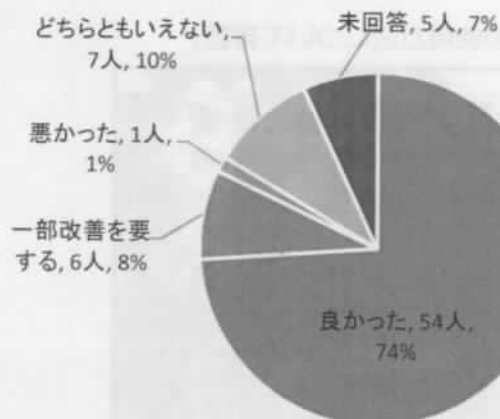
【文教大学会場】



○ 結果（文教大学会場参加者を除く）

参加依頼	84機関
参加機関	32機関
参加人数	9,141人

シェイクアウト訓練について(文教大学会場)



② 課題及び今後の対策

課 題	今後の対策
文教大会場の本部テント内では、机などが少なく、身を隠す場所がなかった。	周囲に身を隠すものがない場合でも実施できるよう訓練方法を検討する。
シェイクアウトについて説明がなくテント内の机の配置が狭かった。数名の展示・指導を兼ねた職員の配置などが効果的ではないか。	次回実施する場合は、事前周知を徹底するほか、訓練開場に詳細を説明できる指導員の配置について検討する。
1分程度では訓練とは言えない。体験・普及である訓練とするならやり方を検討すべきである。	参加者が体験しやすいように、訓練方法について検討する。

(4) 住民参加型訓練

①訓練概要及び結果

今回、新たな取り組みとして、町内会・自治会や地域防災マスターが、災害時における活動等を体験できる訓練を実施し、地域防災力の向上を図った。

○ 倒壊建物救出・救助訓練

防災ベンチに配置している資機材を使用して、倒壊建物の中から人間（人形）を救出・救助し、担架等で実際に搬送する訓練。

※倒壊建物からの救出・救助については、強雨による参加者の安全確保の観点から消防職員の説明のみとし、応急担架の作成、傷病者の搬送を行った。

【防災ベンチ配備資機材】



【倒壊建物からの救出方法について説明】



【担架の使用方法について確認】



【傷病者を搬送】



○ 応急手当訓練

AEDを使用した心肺蘇生訓練を実施した。

【消防職員による説明】



【参加者による実践】



○ 煙体験・バケツ消火訓練

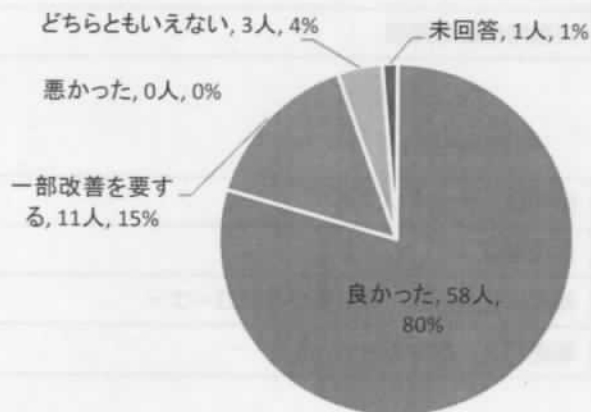
火災発生時に出る煙（無害）体験を実施した。バケツ消火訓練は降雨のため中止した。

【訓練風景】



○ アンケート結果

住民参加訓練について



② 課題及び今後の対策

課 題	今後の対策
住民参加訓練については、参集範囲を拡大する必要がある。各町内会2～3名の参加では地域住民の防災意識の向上が期待できるか検討の必要がある。	災害時には地域住民間の助け合いが重要となることから、訓練参加者対象者について検討する。また、日頃から地域ごとで訓練を行うことも必要である。
訓練の種類、内容にもよるが、事前に参加する町内会・自治会へ依頼、取り決めした中で参加していただく方法としてはどうか。	よりスムーズに訓練を行えるよう、訓練内容の事前説明を行うよう検討する。
降雨の中での訓練実施となったせいか、住民が参加する訓練においても一部内容を変更（省略）する等、展示内容が雑になっていた訓練もあり非常に残念でした。 ※他の組と明らかに内容が違っていた。	降雨の際の対策について不十分であった。組ごとの訓練内容に差が出ないように対策を検討する。

(5) 防災車両、防災資機材展示訓練

① 訓練概要及び結果

石狩川の平均流速・増水時の流速体験装置や防災関係機関の車両や資機材、パネル展示を実施した。

○展示ブース

北海道開発局	流速体験装置
北海道総合通信局	移動電源車、通信機器展示
陸上自衛隊第72戦車連隊	災害用資機材（スプレッド、エアジャッキ等）展示
北海道警察千歳警察署	資機材（シールド）、パネル（東日本大震災）展示
(株)ムラカミ	防災グッズ（非常食、ヘルメット等）展示
恵庭市消防本部	AED、火災報知機展示
レンゴー(株)恵庭工場	避難所用段ボール展示
三和シャッター工業(株)	シャッター用防水シート展示
北海道開発局千歳道路事務所	パネル（大雨災害）展示
東日本電信電話(株)	災害伝言ダイヤル「171」コーナー
北海道コカ・コーラボトリング(株)	災害用自動販売機

○展示車両

北海道開発局	照明車、排水ポンプ車
北海道電力(株)	発電機車
(株)ドコモCS北海道	衛星移動無線車、衛星携帯電話コーナー
北海道警察千歳警察署	輸送バス、パトカー

【展示ブース：NTT 東日本】

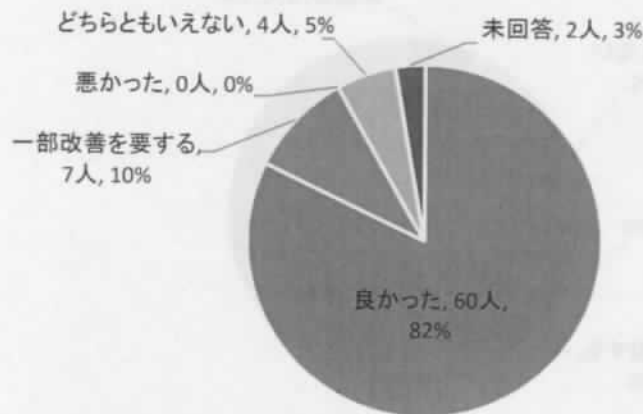


【流速体験装置：北海道開発局】



○アンケート結果

防災資機材等展示訓練について



② 課題及び今後の対策

課 題	今後の対策
天候の悪い事もあったが、それぞれの資機材のコーナーを順に説明して欲しかった。	実際の災害時には資機材を使用することが想定されるため、説明員の配置について検討する。

(6) 応急給水訓練

① 訓練概要及び結果

災害時の断水を想定し、水道対策部が石狩東部広域水道企業団から1000ℓを受水し、訓練会場にて給水活動を行った。また、石狩東部広域水道企業団は災害備蓄品のペットボトル480本を訓練会場へ搬送し、提供した。

【給水車：水道対策部】

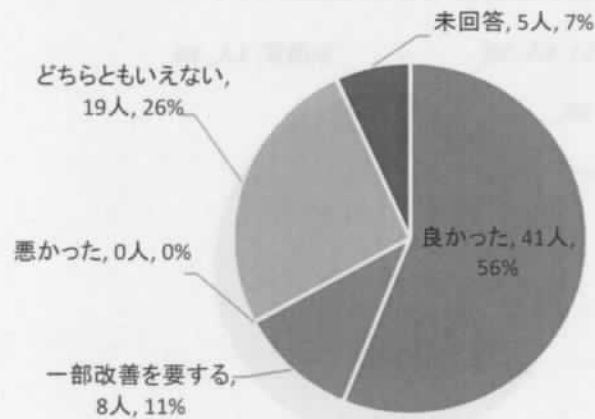


【飲料水の提供：石狩東部広域水道企業団】



○アンケート結果

応急給水訓練について



② 課題及び今後の対策

課 題	今後の対策
ペットボトル水の配布場所をわかりやすい場所にし、看板をつけた方がさらに多くの参加者にアピールすることができたと思う。また、ペットボトル水は受付でも配布していたため、会場での行なわれている訓練の目的が伝わりづらかったように感じた。	災害時にも石狩東部広域水道企業団から水を提供いただけることが安心に繋がるので、水の配布場所、看板設置など工夫が必要。訓練目的などのアナウンスも必要。

(7) 炊き出し訓練

①訓練概要及び結果

避難所での炊き出しを想定し、陸上自衛隊北部方面後方支援隊と恵庭市赤十字奉仕団との連携による炊き出し及び参加者へ配食を実施した。

○ご飯（市備蓄食）

山菜おこわ（アルファ米）	700食
--------------	------

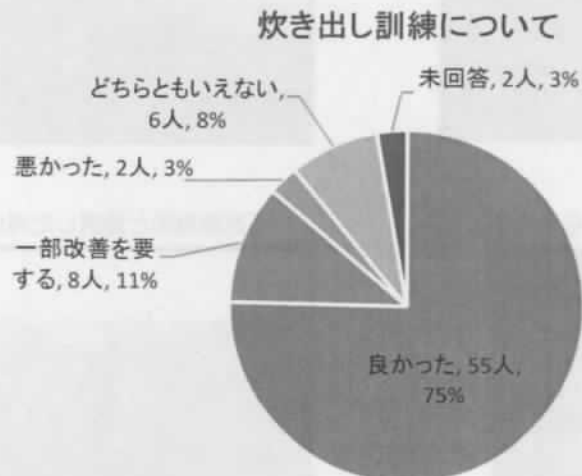
○汁物（11部隊、各部隊80食、合計880食）

北部方面輸送隊（真駒内）	五目風あんかけ醤油ラーメン
第101全般支援大隊（島松）	かぼちゃ汁
第102全般支援大隊（真駒内）	豚汁
第103全般支援大隊（上富良野）	貝だくさん汁
第101特科直接支援大隊（北千歳）	つみれ汁
第101高射直接支援大隊（東千歳）	鶏さのこ汁
第101施設直接支援大隊（南恵庭）	豚汁
第101通信直接支援大隊（札幌）	豚つみれ汁
第305普通科直接支援中隊（真駒内）	野菜きのこポトフ
第301対舟艇対戦車直接支援隊（倶知安）	豚汁
北部方面後方支援隊本部付隊（島松）	豚汁うどん

【炊き出し訓練風景】



○アンケート結果



② 課題及び今後の対策

課 題	今後の対策
雨の中多くの隊員の皆さんが参加され、調理も早く普段から訓練されていることがわかった。ただ、メニューをどこで作っているのかがわかりづかったため、表示方法等を工夫していただきたい。	メニューの表示方法について調整する。
部隊訓練としての成果はあった。地域住民による炊き出し訓練を検討する必要があるような気がする。	災害時には地域住民による炊き出しも必要となるので訓練について検討する。
災害派遣時炊き出しは自衛隊の大きな支援の一つであるが、防災訓練の度に常に炊き出しの時代は終わった。	炊き出し訓練以外にも自衛隊と連携した訓練について検討する。

(8) 大規模地震対応消防訓練

① 訓練概要及び結果

市内に直下型地震が発生し、家屋の倒壊により通行車両を巻き込んで負傷者が発生。負傷者の救出、搬送及び火災発生に伴う消火活動訓練を、市消防本部、消防団のほか、千歳市消防本部、北広島市消防本部の応援により実施した。

訓練項目	実施内容	実施機関
災害現場発見による通報	119番通報	恵庭市消防団員（市民役）
通報者等による救出	倒壊した瓦礫を取除き救出	恵庭市消防団員（市民役）
倒壊家屋・事故車両からの救出	屋外救助活動、避難誘導	恵庭市消防団員
倒壊家屋内の逃げ遅れ者救出	屋内進入による救助活動	恵庭市消防本部
傷病者トリアージ	トリアージポスト・応急救護所設置	恵庭市消防本部
倒壊家屋より火災発生	消火活動	千歳市消防本部 北広島市消防本部 恵庭市消防本部

【消防団による倒壊家屋、事故車両からの救出】



【消防本部による倒壊家屋からの救出】

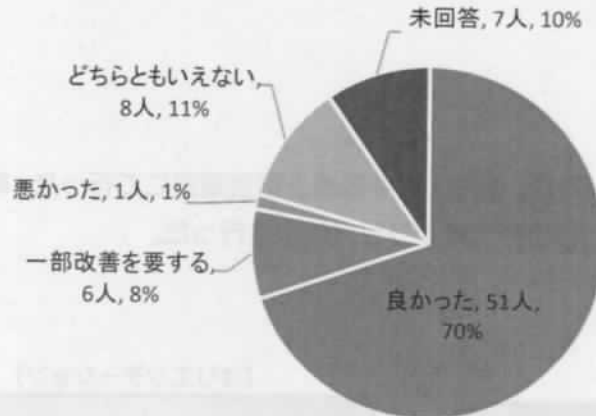


【近隣消防と連携した消火活動】



○アンケート結果

大規模地震対応消防訓練について



② 課題及び今後の対策

課 題	今後の対策
雨天時には別の訓練方法があるのではないか。	雨天時の訓練方法について検討する。
今回の訓練規模からすると、倒壊建物に臨場感がない（ありあわせの材料で職員が作成した）ことから、外部発注も考慮しなくてはならない。	倒壊建物訓練方法について、近隣市の状況も調査し検討する。
放送設備の見直しにより、見ている市民も職団員も訓練内容が理解できると思う。	放送設備の見直しを検討する。
雨とはいえ、迫力が見られなかった。折角千歳、北広島から消防車が駆けつけたのに臨場感が出ずじまい。やはり二次災害に火災はつきものですからもう少しメリハリのある内容で演出して欲しかった。	訓練内容・方法について検討する。

(9) 災害ボランティアセンター開設訓練

①訓練概要及び結果

災害発生時における被災者支援のため、恵庭市社会福祉協議会へ災害ボランティアセンターを開設し、恵庭市社会福祉協議会、支援対策部支援班、恵庭青年会議所の連携により開設・運営を行った。

ボランティア役には隊友会恵庭支部連合会、市ボランティアセンターの方々に協力いただき、受付からオリエンテーションの受講まで実施した。

ボランティアの内容は、黄金ふれあいセンターから子ども発達支援センター（福祉避難所）への移送を想定し、実際に訓練として実施する予定であったが、強雨のため中止とした。

○ 会場設営

訓練当日は、設営当初は雨が降っていなかったため、屋外に設営。

○ 受付

訓練当日の雨脚が強くなってきたため、ボランティア参加者は玄関で待機してもらい、数人ずつテントにて受付を実施。

○ オリエンテーション

当初屋外での実施を予定していたが、強雨により急遽2階会議室にて行った。車イスの移送方法、歩行困難者の介助方法の説明や、参加者全員でラジオ体操を行った。

【受付】



【オリエンテーション】



② 課題及び今後の対策

10月7日、訓練参加機関の代表者8名が社会福祉協議会に集まり、災害ボランティアセンター・福祉避難所開設訓練検証会議を開催し、課題について協議を行った。

参加機関	恵庭市社会福祉協議会、恵庭青年会議所、隊友会恵庭支部連合会、黄金中央カリンバ会、市支援対策部支援班（まちづくり推進課）、市総務対策部本部班（基地・防災課）
------	---

○ 事前準備（会場設営、備品等）

課 題	今後の対策
震度6強の地震では、社会福祉会館の車庫が開かなくなるのでは、又は倒壊してしまうのではないか。	災害ボランティアセンターの運営上で必要な物品については車庫には置かず、会館内にて保管する。

○ 事前準備（会場設営、備品等）

課 題	今後の対策
受付及びオリエンテーション会場を駐車場に設置したが、今回のような大雨や日差しが強い日などを想定すると、テントの数が1張では足りないのではないか。	会館内に受付を設置するなど、気象状況に合わせて対応する。
参加者にはゼッケンを着用してもらったが、破れやすいなどの不便があった。	今後は衣類用ステッカーの使用を検討する。

○ 訓練内容（受付・オリエンテーション）	
課 題	今後の対策
受付票には名前のみを記入したが、本人の資格や特技を記入する項目を設けるべきではないか。	今回はあらかじめボランティアを用意していたため受付を簡略化し名前だけの記入とした。実際の登録用紙には、資格、特技といった項目はあるため、今後の訓練においてはすべての項目を記入することとする。
オリエンテーションでは説明だけでなく、実際に体験できれば良かった。	今後のオリエンテーションにおいては、説明のみとせず体験する時間を設ける。

○ その他	
課 題	今後の対策
災害ボランティアに携わる人々や、企業や団体の実務担当者が集まる場があると良い。	開催について検討する。

（10）福祉避難所開設訓練

①訓練概要及び結果

子ども発達支援センターに福祉避難所を開設し、黄金ふれあいセンターにて被災した要支援者（黄金中央カーンバ会）の受け入れを行った後、保健福祉対策部保健班の保健師による避難者へのメディカルチェックを実施した。

○会場設営

保健福祉対策部救護班（子ども発達支援センター）により受付の設置、ロールマットを敷設した。

○受付

要支援者役の黄金中央カーンバ会が、災害ボランティアセンターから派遣されたボランティアの付き添いのもと受付を行った。受付では、要支援者の情報を職員が聞きとり、名簿に記載した。

○ 受け入れ、メディカルチェック

要支援者を受け入れたあと、ボランティア、救護班による飲料水の配布を行ない、保健班によるメディカルチェックを行った。

【ボランティアの介助のもと受付】



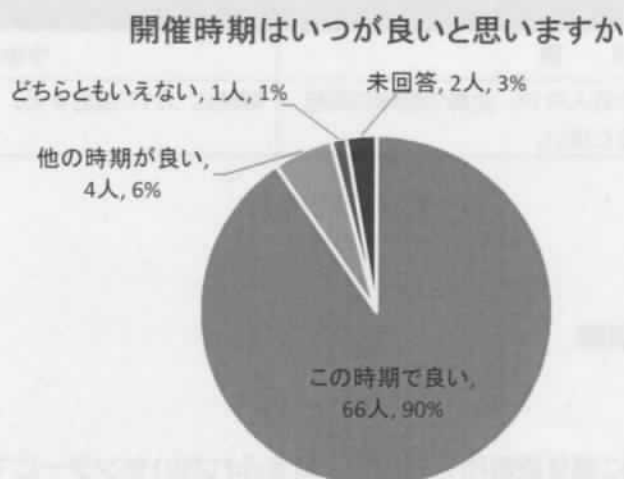
【メディカルチェック】



② 課題及び今後の対策

課 題	今後の対策
メディカルチェックの中でどこまで話をすれば良いのか戸惑った。参加者の中には訓練なので具体的には話さなかったが、実際には具体的に伝えていくべきとの話が出た。	訓練では個人情報保護のため、聞き取り内容に制限があるが、実際には体調に関する項目は具体的に聞き取りを行う。
要支援者として元気な高齢者ばかりであったが、支援が必要な人々が来た場合対応できるのか。	災害時には、より支援の必要な人々の避難が予想されるため、今後の訓練想定に反映させる。

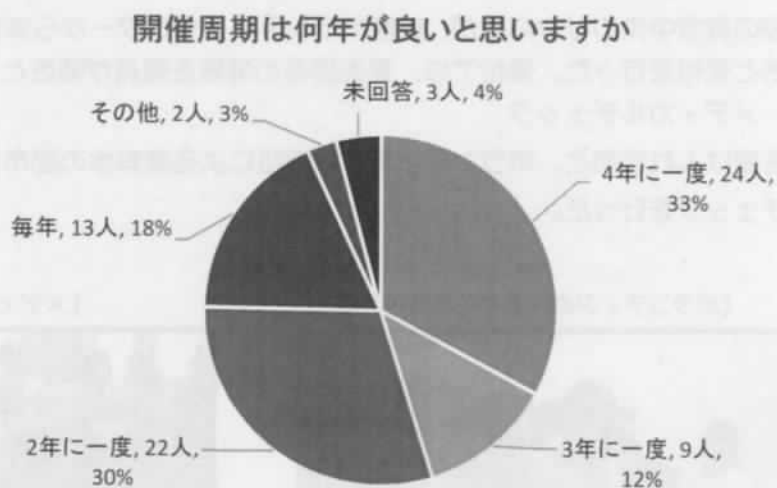
(11) 開催時期



○ 開催時期

次回の開催にあたっては、こうした意見を踏まえた上で、防災会議で検討する。

(12) 開催周期



○開催周期

次回の開催にあたっては、こうした意見を踏まえた上で、防災会議で検討する。

5 検証を踏まえた今後の災害対策への反映事項

災害対策本部訓練について、今回は初めてブラインド型訓練を実施したが、参加者全員が訓練の重要性を認識し、緊張感を持って取り組んだ姿勢は評価できる。

しかしながら、訓練を実施して、新たな課題や反省点もあったことから、下記事項について見直しを行い、今後の災害対策に生かしていく必要がある。

(1) 災害対策本部訓練

- ・災害発生時の被害想定と状況付与の見直し
- ・各種情報を共有するため、プロジェクター・スクリーンの有効活用
- ・職員の危機意識の向上のため職員全体の訓練とする
- ・被害情報収集方法と分析方法
- ・各災害対策部長と連絡員の情報連絡体制の構築
- ・会議室内の配置の見直しと地図、備品の有効活用
- ・対策活動ごとの調整会議の開催

(2) 情報伝達訓練

- ・災害時に備え複数の連絡方法の確認

(3) シェイクアウト訓練

- ・訓練内容の事前周知と指導職員の配置

(4) 住民参加訓練

- ・訓練参加対象者（町内会含む）の範囲について検討
- ・訓練参加者への訓練内容の事前説明

(5) 防災車両、防災資機材展示訓練

- ・展示車両、資機材の追加、拡充

(6) 応急給水訓練

- ・看板設置など訓練場所の周知

(7) 炊き出し訓練

- ・地域住民による炊き出し訓練の実施

(8) 大規模地震対応消防訓練

- ・訓練内容、訓練方法の内容検討

(9) 災害ボランティアセンター開設訓練

- ・受付方法の見直し（資格や特技など詳細に記入）

(10) 福祉避難所開設訓練

- ・重度の要支援者を想定した訓練の実施

(11) 訓練全般

- ・荒天時の対応の明確化（訓練内容、訓練会場、予備日等）
- ・アナウンサー、映像車との調整
- ・訓練会場、開催時期、開催周期の検討
- ・訓練結果の職員への周知方法の検討

本町では、防災意識の醸成を図るため、毎年、町民を対象とした防災訓練を実施している。本年度は、町民の防災意識の醸成を図るため、町民を対象とした防災訓練を実施した。本年度の防災訓練は、町民の防災意識の醸成を図るため、町民を対象とした防災訓練を実施した。

平成27年度恵庭市総合防災訓練 災害対策本部訓練に関する評価

平成27年9月7日

訓練評価者

1 前言

平成27年9月2日(水)午前8時45分から9時30分の間、恵庭市役所3階第301・302会議室において災害対策本部訓練が実施され、小職その状況をつぶさに確認した。

本訓練は午前8時00分頃、恵庭市内北東部を震源とする震度6強の直下型地震が発生したとの想定に基づき、発災45分後に開催された第1回対策本部会議の場をとらえて職員の参集状況に関する報告や各対策部に関わる被害状況・対応報告等を中心に実施されたが、参加者全員が訓練の重要性を認識し終始熱心に取り組んでいたことから、本訓練の目的は概ね達成したものと認められる。

しかしながら、改善すべき点も見られることから、今後の災害対策本部の能力向上に資するため、今回の訓練における災害対策本部会議と災害対策本部の内部体制の2点について、忌憚のない評価をさせていただく。

2 訓練評価について

(1) 災害対策本部会議

ア 総務対策部長による職員参集状況報告及び被害状況報告

(ア) 良好な事項

会議参加者の理解を容易にする地震情報及び被害状況を要約した資料を配布するとともに「被害状況図」を使用して被害発生地点を具体的に指し示しながら、簡潔明瞭に報告したのは適切であった。

(イ) 改善すべき事項

報告が地震情報と被害状況の報告のみに留まり、情報の分析結果に関する報告が欠落していたのは改善を要する。

地震の数値データや生の被害状況をそのまま報告しても、対策本部長にとっては、その情報をどのように理解すれば良いのか、その情報から何を判断すべきか不明である。対策本部長の状況把握を容易にするためには、情報の分析を確実にを行い、直面している課題や今後の対応について報告しなくてはならない。この報告が欠落していたため、後ほど対策本部長から「自衛隊の災害派遣要請の要否」について問われることになった。これは対策本部長の補佐という観点からは残念なことであった。

危機事態の特性として発生直後の状況は「不明」であり、被害情報は「限定」されるが、今回の事態において対策本部は既に地震情報を入手しており、震源、地震規模、震度を把握していた。したがってこの地震情報と既存の「地震被害想定見積もり」を比較・検討し、情報の分析をするべきであった。

今回発生した地震は「恵庭市地域防災計画地震災害対策編」の想定地震一覧における恵庭市内の直下地震に該当し、地震情報と想定を比較すると地震規模がマグニチュード7.2に対し想定規模はマグニチュード6.9、震度は想定震度と同じ震度6強であった。想定における人的被害予測は、死者6名の発生及び400名

近い重傷者を含む多数の負傷者が発生し、建築物被害予測は多数の全・半壊家屋が発生すると見積もられている。更に発災後、震度5弱を含む3回の余震も発生していることから「想定と同等な甚大な被害の発生が予測」され、「更に被害が拡大する可能性」があり、「行政だけでは対応できない」ことが判断できる。

このような情報の分析結果を踏まえて、現在深刻な課題に直面していることを対策本部長に報告するとともに、今後の対応として広域応援要請や自衛隊の災害派遣要請の必要性及び各対策部による救出・救助対策、避難対策、医療救護対策等を具体化する必要性について報告すべきであった。

イ 各対策部長による各対策部に関する被害状況及び対応報告

(ア) 良好な事項

消防部隊対策部長の報告は、今後の被害拡大によっては、消防対策部として現有の消防力では限界があるとの課題を明確にするとともに、今後の対応のため、先行的に広域消防応援要請、防災ヘリ要請について関係部署に対し事前連絡済みであることを報告し、対策本部長の状況把握を容易にしたのは極めて適切であった。

(イ) 改善すべき事項

a 消防部隊対策部を除き、被害状況と処置した事項の報告に留まり、情報の分析結果の報告がなかったのは改善を要する。

危機事態の特性は、発生直後の状況は「不明」であり、被害情報は「限定」されているが、今回は対策本部として地震情報を入手しており、震源、地震規模、震度を把握していた。したがって各対策部においても、この地震情報と既存の「地震被害想定見積もり」を比較・検討し、情報の分析をするべきであった。

今回発生した地震は「恵庭市地域防災計画地震災害対策編」の想定地震一覧における恵庭市内の直下地震に該当し、地震情報と想定を比較すると地震規模がマグニチュード7.2に対し想定規模はマグニチュード6.9、震度は想定震度と同じ震度6強であった。想定における人的被害予測は、死者6名の発生及び400名近い重傷者を含む多数の負傷者が発生し、建築物被害予測は多数の全・半壊家屋が発生すると見積もられている。更に発災後、震度5弱を含む3回の余震も発生していることから「想定と同等な甚大な被害の発生が予測」され、「更に被害が拡大する可能性があり、「行政だけでは対応できない」ことが判断できる。

このような情報の分析結果を踏まえて、各対策部が直面する課題を明らかにし、今後の対応について報告するべきであった。

ウ その他

(ア) 良好な事項

特になし。

(イ) 改善すべき事項

a 「応急対策活動ごとの調整会議」の実施について、指示がなされなかったのは

改善を要する。

災害は縦割りの事務では対応できない。応急対策活動ごとに関係する各対策部が密接に連携し、横断的に対策の検討を行わなければ、応急対策活動に齟齬が生じるのは明白である。また災害対策本部会議において各対策部が縦割りで各々の対策を報告しても対策本部長は全体像が把握しづらい。

第2回対策本部会議からは各対策部の縦割り報告ではなく、対策本部長の理解を容易にし、意思決定がしやすい「応急対策活動ごとの報告」に切り替えるべきである。そのためにも応急対策活動ごと、各対策部を横断した調整会議を実行するよう総務対策部長または総務対策部本部班から指示を行うべきであった。

今後の災害対策本部活動のため、別紙のとおり提言するので参考にさせていただきたい。

別紙第1「応急対策活動ごとの調整会議及び災害対策本部会議における報告に関する提言」

- b 災害対策本部会議の終了時に次回の会議についての予告がなされなかったのは改善を要する。

今回の訓練は、第1回対策本部会議の場をとらえており、会議終了をもって訓練終了との認識からあえて予告がなされなかったと思われるが、実際の事態を踏まえれば予告をするべきであった。

予告にあたっては、次に行う会議は「何のための会議なのか」会議の目的を明確にすることが必要であり、その目的を達成するためには準備の余裕が必要となる。このため準備の余裕を考慮して会議の開催時刻を定め、会議参加者に会議の目的や開催時刻を予告しておく必要がある。

やっではないけないことは何らの予告もなく、会議の5分～10分前に突然会議開催の指示を出し、会議参加者に会議の準備に必要な時間的余裕をあたえぬまま会議を開催してしまうことである。これは過去、他の自治体の災害や防災図上訓練で垣間見られた課題でもある。

第1回対策本部会議の終了時に第2回対策本部会議について総務対策部長または総務対策部本部班から、目的、開催時刻を明確にして予告するべきであった。

(2) 災害対策本部の内部体制について

ア 各種資料（状況把握のための資料）

(ア) 良好な事項

- a 「被害状況図」を準備し、市内の被害状況を把握できる体制をとっていたのは、たいへん適切であった。

今回の訓練において市内の被害状況が掌握できるよう地図にビニールオーバーレイをかけ、マジックペンで被害状況を表示した「被害状況図」を災害対策本部内に準備し、対策本部長席の正面に見易いよう角度をつけて設置していた。

地図は被災場所の位置情報のほか、周辺の道路や活動の妨げになる地形・地物

など現場の活動に関係する多くの情報内容を含んでいる。更に地図へ被害状況や活動状況などの情報内容を表示することにより、地図上の他の情報と関連付けながら一目瞭然で状況を理解することができ、情報内容を総合的に把握することが可能となる。

ごく最近まで情報内容の表示はホワイトボードへの文字情報の記入のみであったが、ホワイトボードがあれば状況把握できるとの認識が非常に強く、地図上に被害状況等の情報内容を表示することの有用性を説いてもなかなか理解されなかった。ホワイトボードは情報履歴として、時系列で入手した情報や対策・処置が把握できる利点があるが、具体的な位置情報などを把握するのは困難である。

今後はホワイトボードと「被害状況図」を併用するとともに、対策本部長以下が状況をより容易に理解できるよう、今回の訓練を機会に災害関連記号の検討及びビニールオーバーレイによる「応急対策活動状況図」等も作成できるよう更なる向上を図っていただきたい。

- b 災害対策用 TV モニターを設置し、気象庁の情報を表示して、当面の天気予報（警報・注意報含む）を把握できる体制をとっていたのは適切であった。

天候の状況によっては被害の拡大（2次災害）や現場における応急対策活動に重大な影響を及ぼす。このため対策本部長以下が当面の天気予報を把握し、予測を適切に行い具体的な措置・対策を講じられるよう会議の場において有効に活用されたい。

（イ）改善すべき事項

- a 災害対策本部に備える地図の機能が不十分であるのは改善を要する。

災害対策本部において「被害状況図」として使用されていた地図は、基地・防災課が国土地理院のホームページを活用して、自衛隊と情報共有可能な座標（グリッド）が入ったものを応急的に作成したものであるが、残念ながら恵庭市全体がカバーされておらず、市郊外における災害や市全域にわたる大規模災害、山間部における行方不明者発生事態等に対応できるものではない。

本訓練を機会に災害対策本部に備える地図について見直しを図るべきであり、別紙のとおり提言するので参考にいただきたい。

別紙第2「災害対策本部に備える地図に関する提言」

- b 市内の人的・物的被害数を計数的に把握できる資料が欠落しているのは改善を要する。

対策本部長以下が常に最新の被害状況数を把握できるよう、更新可能な一覧表を作成して対策本部内に掲示していただきたい。

- c 防災備蓄品の状況を把握できる資料が欠落しているのは改善を要する。

対策本部長以下が常に防災備蓄品の現状を把握できるよう、更新可能な一覧表を作成して対策本部内に掲示していただきたい。

- d 避難所の収容者の状況を把握できる資料が掲示されているが、やや不十分であり改善を要する。

現在の資料を拡大し、対策本部長以下が常に最新の避難所ごとの収容者数とその内訳、特に高齢者、障害者、妊産婦、乳幼児等の要配慮者について把握できるよう修正し、対策本部内に掲示していただきたい。また避難所の位置を表している地図は、方角が把握しづらいので改善されたい。(地図の上方は北の方角が原則であるが、そのようになっていない。)

e 次回の対策本部会議の目的、時期を周知できる表示物が欠落しているのは改善を要する。

災害の発生は、平素の事務執行体制からの転換を余儀なくされ非定常状態になることから、混乱・錯誤が生じやすい。次回会議を口頭で対策本部会議参加者に予告するとともに周知徹底を図るため、「会議案内表示板」を作成して対策本部内に掲示していただきたい。

イ 情報収集・連絡手段

(ア) 良好な事項

- a 災害対策本部会議において自衛隊等から情報提供を受けられる体制をとっていたのは適切であった。
- b 対策本部長席に専用の電話機(関係防災機関責任者とのホットライン)を準備していたのは適切であった。

(イ) 改善すべき事項

特になし。

ウ 記録

(ア) 良好な事項

対策本部内にホワイトボードを備え付け、対策本部会議で報告された被害状況、処置事項を時系列で記入し、情報履歴として活用できる体制をとっていたのは適切であった。

(イ) 改善すべき事項

長期の活動を念頭においた情報履歴の記録準備の体制がとれていなかったのは改善を要する。

わずか1枚のホワイトボードでは長期に亘る災害対策本部の活動を情報履歴として残すことはできない。予備のホワイトボードまたはロール紙を準備するとともに、パソコンに記録し、災害対策本部会議の場において、スクリーン画面で対策本部長以下が軽易に情報履歴を確認できるようにしていただきたい。

(パソコン、プロジェクター、スクリーンを備え付けられたい。)

エ その他

(ア) 良好な事項

特になし。

(イ) 改善すべき事項

- a 災害対策本部に指示棒が備え付けられていないのは改善を要する。(今回自衛隊から借用)

これは、従来から災害対策本部内に市内地図は備えてはいたものの使用目的が明確ではなく、形式的でほとんど活用されてこなかったことが原因であり、地図上の地点を具体的に指し示す必要がなかったためである。今後は対策本部長以下の状況把握を容易にするため地図を積極的に活用するとともに、地点を具体的に指し示す用具である指示棒を購入し、備品として対策本部内に備え付けていただきたい。

- b 被害状況等、現地の状況を画像等で確認できる体制がとれていなかったのは改善を要する。

現地の状況を具体的にイメージアップする手段として画像や動画はたいへん有効である。災害対策本部会議の場において、スクリーン画面で対策本部長以下が輕易に現地の状況を確認できるようにしていただきたい。

(パソコン、プロジェクター、スクリーンを備え付けられたい。)

3 結言

以上、恵庭市の災害対策本部の強化のためと信じ、あえて忌憚のない評価及び提言を行ったが、この評価と提言を参考に着実に改善を図っていただければ幸いである。

なお、今回の災害対策本部訓練の場において確認できなかったが、各対策部が訓練開始前に提出した「初動体制報告書」を見る限り、一部の対策部を除き、具体的な情報収集項目を定めていないのではないかとこの危惧を感じた。

災害における情報収集は、予め情報収集項目を定めておかなければ危機事態発生時に何を収集してよいのか混乱する。応急対策を担う各対策部は所掌事務に係わる情報を積極的に収集し、迅速な応急対策をとるべき任務があることから、「所掌事務の実行の要否を判断」したり、「応急対策を具体化」するために必要な情報収集項目を平素からリストアップしておくべきである。

今後、情報収集項目を定めている対策部は応急対策の観点から更に情報収集項目の充実を図るとともに、不十分な対策部は応急対策上必要とする情報収集項目をリストアップし、整理されるよう提言し、むすびとさせていただきます。

別紙第1 「応急対策活動ごとの調整会議及び災害対策本部会議における報告に関する提言」

別紙第2 「災害対策本部に備える地図に関する提言」

応急対策活動ごとの調整会議及び災害対策本部会議における報告に関する提言

災害は縦割りの事務では対応できない。また対策部が順番に本部長に対策を報告しても、本部長は全体像が把握しづらい。下記の表は「避難対策」を例にしたが、各対策部・班が密接に関係していることがわかる。故に以下の事務が必要となる。

- 1 災害対策本部は、関係する対策部・班に横串を刺し、「横断的調整」を行わせて相互に連携を密にした対策を検討させる。
- 2 本部長への報告は、各対策部による縦割り報告ではなく、応急対策活動ごとに横断的に検討した対策結果を報告し、災害対策本部会議において対策を決定して実行する。(対策本部長は各応急対策活動の全体像が理解でき、意思決定がしやすい。)

※このため、平素から応急対策活動ごとに調整会議の統括責任部(班)(者)を指定しておくなければならない。

■応急対策活動とその関係部署一覧(例：避難対策活動の場合)

連番	所掌事務	対策部	対策班
1	避難の勧告・指示	消防隊本部	第1中隊
2	避難勧告、避難指示の伝達	支援対策部	広報班
3	避難収容所の開設及び管理・運営	憩いの家、子ども発達支援センター限定	救護班
		憩いの家、子ども発達支援センターを除く	避難対策班
4	教育関係施設の避難所としての開設	避難教育対策部	教育対策班
5	住民の避難誘導	避難教育対策部	避難対策班
		消防隊本部	第1中隊
6	食品(食糧)及び物資の調達	総務対策部	管財班
7	道路の運行、禁止及び制限措置	建設対策部	道路河川班
8	物資の輸送	総務対策部	配送班
9	被災者の食料品供給	保健福祉対策部	救護班
10	被災者の応急衣料、生活必需物資の供給	保健福祉対策部	救護班
11	避難所の保健指導	保健福祉対策部	保健班
12	避難所等における広報・広聴活動	支援対策部	広報班

※ 恵庭市地域防災計画資料編(資料)資料8 災害対策本部各部・班の所掌事務から抜粋し、表にして整理

災害対策本部に備える地図に関する提言

現状は、行政が使用している地図は、「町丁・地番」表現であり、下表にある利点はあるものの、郊外や山間部における地点の受伝達が困難という大きな不利点があります。また、将来、市郊外における災害（例えば暴風雪による車の立ち往生・遭難）や市全域にわたる大規模災害、山間部での行方不明者発生の可能性も否定できないことから、市民の生命、身体及び財産を災害から保護する責任を有する行政にとって、後ろ盾となる自衛隊と相互に位置の特定・認識に齟齬が生じないように、共通地図として「座標」表現の地図を保有すべきと提案します。

＜各地図の特性＞

区分	地図の表現方法	利点	不利点	評価
行政	町丁・地番	居住地区では迅速な対応が可能	郊外、山間部など無番地の地点では受伝達が困難	△
自衛隊	座標 ※ 陸上自衛隊は6桁使用	どのような地点であっても受伝達が可能	座標の読み方に習熟が必要	○

平成27年度恵庭市総合防災訓練 意見・要望調査票(本部)

機関・団体名	
担当部署名	
職・氏名	
電話番号	

◎ 災害対策本部訓練について

今回の災害対策本部訓練は、ブラインド型訓練を取り入れ、各対策部へは状況のみ付与し、災害時にどのように対処すべきかを重点に訓練を実施しました。訓練の成果や改善点について伺います。

※記入方法：□内に“○”を記入するとともに、必要に応じてご意見を記入してください。

1 ブラインド型訓練について

1-1. 今回の訓練は、事前に訓練の進行やシナリオを与えず、状況のみを付与するブラインド訓練として実施したが適切であったか？

- 適切であった
 一部改善を要する
 シナリオ型訓練とすべきである

「一部改善を要する」、「シナリオ型訓練とすべきである」を選択した方は理由について記入願います。

1-2. 今回の訓練は、火災の発生や道路の寸断など事前に被害状況を付与したが、その状況付与は適切であったか？

- 適切であった
 一部改善を要する
 状況付与は必要ない

「一部改善を要する」、「状況付与は必要ない」を選択した方は理由について記入願います。

ブラインド型訓練について、良かった点や今後改善すべき点等がありましたら記入願います。

2 本部訓練の進行について

2-1. 今回の進行内容は、①ライフライン被害状況等報告、②各対策部からの状況報告、③関係機関からの状況報告、④本部長からの質問・指示であったが、適切であったか？

適切であった 一部改善を要する 改善を要する

「一部改善を要する」、「改善を要する」を選択した方は理由について記入願います。

2-2. 今回の訓練時間は約1時間であったが、時間は適切であったか？

適切であった 時間が短い 時間が長い

「時間が短い」、「時間が長い」を選択した方は適切な時間・訓練内容について記入願います。

本部訓練の進行について、良かった点や今後改善すべき点等がありましたら記入願います。

3 本部会議の配置、図面について

3-1. 災害対策本部訓練では、各対策部長の机をなくし、図面を中心として本部長や各対策部長を配席したが、こうした配席は適切であったか？

はい 一部改善を要する いいえ

「一部改善を要する」、「いいえ」を選択した方は理由について記入願います。

3-2. 災害対策本部訓練では、テレビ、防災無線操作卓、図面、ホワイトボード、電話、ファックス、パソコンを配備したが、こうした備品は適切であったか？

はい 一部改善を要する いいえ

「一部改善を要する」、「いいえ」を選択した方は理由について記入願います。

3-3. 災害対策本部訓練では、図面により被害情報などを共有したが、今後の対策本部会議でも図面を使うべきか？

はい いいえ

「いいえ」を選択した方は理由について記入願います。

3-4. 図面は関係機関（自衛隊、開発局、警察、消防）と統一すべきか？

統一すべき 統一しなくてもよい

「統一しなくてもよい」を選択した方は理由について記入願います。

本部会議の図面、配置について、良かった点や今後改善すべき点等がありましたら記入願います。

4 災害対策本部訓練全般について

4-1. 災害対策本部訓練の開催周期を何年とするべきか？

- 4年に一度(現行) 3年に一度 2年に一度 毎年
 その他

「その他」を選択した方は具体的に記入願います。

4-2. 今後の災害対策本部訓練の災害想定は何にするべきか？

- 地震災害(現行) 水害 火山災害 その他

「その他」を選択した方は具体的に記入願います。

災害対策本部訓練全般についてご意見、ご要望がありましたら記入願います。

平成27年度恵庭市総合防災訓練 意見・要望調査票(文教大・関係機関)

機関・団体名	
担当部署名	
職・氏名	
電話番号	

◎ 平成27年度恵庭市総合防災訓練(北海道文教大学での訓練)について

今回の訓練は自助・共助に重点を置き、町内会・自治会、自主防災組織、北海道地域防災マスター認定者が主体となり参加・体験できる住民参加型訓練や、防災資機材等展示訓練、応急給水訓練、炊出し訓練を行いました。訓練全般における意見等を記入願います。

※記入方法：□内に“○”を記入するとともに、必要に応じてご意見を記入してください。

1 総合防災訓練内容について

1-1. 住民参加型訓練について

良かった 一部改善を要する 悪かった どちらともいえない

その理由について記入願います。

1-2. シェイクアウト訓練について

良かった 一部改善を要する 悪かった どちらともいえない

その理由について記入願います。

1-3. 防災資機材等展示訓練について

良かった 一部改善を要する 悪かった どちらともいえない

その理由について記入願います。

	目的・内容
	実施日時
	参加者
	実施場所

1-4. 炊き出し訓練について

良かった 一部改善を要する 悪かった どちらともいえない

その理由について記入願います。

--

1-5. 応急給水訓練について

良かった 一部改善を要する 悪かった どちらともいえない

その理由について記入願います。

--

1-6. 大規模地震対応消防訓練について

良かった 一部改善を要する 悪かった どちらともいえない

その理由について記入願います。

--

2 総合防災訓練全般について

2-1. 総合防災訓練の開催時期はいつが良いと思いますか？

この時期(8月30日～9月5日の防災週間)が良い

他の時期が良い

開催時期についてご意見等がありましたら記入願います。(平日開催、休日開催など)

2-2. 総合防災訓練の開催周期は何年が良いと思いますか？

4年に一度(現行)

3年に一度

2年に一度

毎年

その他

開催周期についてご意見等がありましたら記入願います。

2-3. 今後どのような訓練を取り入れたら良いと思いますか？

図上訓練

避難所開設訓練

避難所運営訓練

その他

今後取り入れたほうが良い訓練についてご意見等がありましたら記入願います。

2-4. 総合防災訓練全体(訓練規模、会場設営等)について

今回の総合防災訓練全体を通してご意見、ご要望がありましたら記入願います。